学校番号	３２４

令和３年度　国語科

教科	国　語	科目	国語総合	単位数	5	年次	1
使用教科書	「新編　国語総合」　（ 数研出版 ）						
副教材等	「常用漢字ダブルクリア　四訂版」　（尚文出版） 「常用漢字ダブルクリア　別冊徹底トレーニングノート」　（ 尚文出版 ） 「古典文法要点整理ノート」　（数研出版）						

1 担当者からのメッセージ

多くの文章にふれることで、いつもの生活では持たない感情や、見たこともない新しい世界に出会ったりすることができます。そのときにより深く理解できる言葉の力を身につけていきましょう。小説を読んで登場人物や作者の心理や意図を考え、評論を読んで文章の意味をつかむトレーニングをしていきますが、漢字や語句の知識がそこで必要となります。これはみなさんの将来にも役立つものなので、しっかりがんばっていきましょう。

みなさんがそれぞれに考えたことを互いに発表しあうことで、授業は深まり楽しくなります。どのような意見が出てくるか、担当者も楽しみにしています。

2 学習の到達目標

・自らが集中して考える時間と、多数で考えを深めていく時間を使い分けられるようになる。
・基本的な語彙や常用漢字を使いこなせるようにし、卒業後、進学先で、あるいは就職先で必要な技能を身につける。
・大勢の人の前で発言し、自らの意見を広く伝える力を身につける。
・授業で扱った作品とは別の作品や、作品の背景にも関心を持ち、授業を離れても生徒各自が言葉や文学作品に興味を持つようにする。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	作品に関心を持ち、意欲的に読む。その関心が、授業を離れても持続し、浸透している。	説明を聞き、疑問点があれば、後に質問する。また、他者の意見を尊重し、しっかり聞けるようになる。	板書をノートに正確に写す。基本的な漢字を書けるようになる。自分の意見を文章化する練習をする。	本文を朗読する。また登場人物の心情や、場面に合った読み、文章の意味を読み取りができる。	言葉の意味や漢字の読み書きの能力を身につける。
主たる評価方法	積極的に授業を受けているか、授業中の質問や発表を評価する。	自分の意見や、他者の意見を聞いての自分の考えを、発表・ノートなどで示せているか。	定期考査ごとにノートを確認し、丁寧で正確に写せているか。自分の意見がまとめられているか。	文章を的確に理解しているか。また、その読み取りを生かした発表や朗読ができるか。	漢字に関しては小テストを行う。その他、意味調べプリント等を活用する。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	随想一	【現代文】 教材: 「世界は一つのクラスルーム」 「立ってくる春」	◎		○	○		a:作者の思考、問いかけに対して主体的に考える。 c:ノートの使い方を覚え、毎時間しっかり板書を写す。 d:作者の意図を的確に読み取る。	a、c:行動の観察と確認 d:記述の確認、定期考査
	評論一	【現代文】 教材: 「ものづくり」	○			◎	○	a:論旨の展開を主体的にたどって、作者の意図を積極的に捉えようとしている。 d:作者の意見、文章の構成などを的確に理解し、科学的な視点を持つ。 e:漢字や語意を正しく理解し、語彙を増やしている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:小テスト
	小説一	【現代文】 教材: 「とんかつ」	○	○		◎		a:作品の人物、情景、心情などを作者がどのように描いているか考える。 b:作品に対する感想、場面に対する問いに対して、互いに意見を出し合い、理解を深める。 d:作品の構成、言葉遣いの特色などを的確に理解している。	a:記述の点検と確認 b:発表、討議などでの行動の観察と確認 d:記述の確認、定期考査
	古文入門	【古典】 教材: 古文入門 歴史的仮名遣い、いろは歌など、古典の基礎知識 『宇治拾遺物語』「児のそら寝」	○		○		◎	a:古典に興味を持って、前向きに授業に臨んでいる。 c:ノートの使い方を覚える。 e:歴史的仮名遣い等、基礎的な知識を身につける。古文を読む際に必要な文語の法則を、習得している。	a:行動の観察 c:記述の点検、確認 e:小テスト、定期考査
	随筆	【古典】 教材: 『徒然草』 「高名の木登り」 「神無月のころ」 動詞の活用	○			◎	○	a:古典の言葉の感覚や作者の意識、文法などに積極的にふれようとしている。 d:文意、作者の意図などを的確に理解し、古典作品の意義を感じる。 e:動詞の活用を覚える。	a:行動の観察 d:記述の点検、定期テスト e:小テスト、定期考査
2学期	詩	【現代文】 教材: 「六月」 「サーカス」	○		○	◎		a:詩の表現技法や構成、言葉のイメージなどを積極的に考える。 c:詩作品に対する理解を深め自己を表現するきっかけを持つ。 d:作者が作品にこめた「生」のイメージを捉える。	a、c:行動と記述の観察と確認 d:定期考査

2学期	随想二	【現代文】 教材: 「滅びるものは滅びるままに」	○	◎		○		a:作品にあらわれる風物、時代などを探求し、作者の思考を深く捉えようとする。 b:作品の背景と現代を比較しながら、自己の意見を持ち、示すことができる。 d:作者の思考や語彙を的確に理解できる。	a:行動の観察と確認 b:行動の観察、記述の確認 d:小テスト、定期考査
	評論二	【現代文】 教材: 「水の東西」	○			◎	○	a:既知の事柄に対しても新しい視点を持ち、より深い意義を見つけようとする態度を持つ。 d:論旨を的確に捉え、自己の考えを広げられる。 e:自分や他者が持つ文化の差異を理解して尊重し、関心を持つ。	a、e:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査
	小説三	【現代文】 教材: 「羅生門」	○		○	◎	○	a:作品を深く読み込み、小説の表現技法、構成などをたどりながら、その面白みを感じる。 c:作品に対する感想や、場面における登場人物の心理を想像し、文章にできる。 d:過去の作品が現代の人間にも通ずる普遍性を持っていることを理解する。 e:作品の語彙を理解する。	a:行動の観察、記述の確認 c:記述の確認 d:定期考査 e:小テスト
	話す・書く	【現代文】 教材: 「表現1　スピーチ」 「表現2　ブックトーク」 「表現5　ディベート」	○	◎	○			a:発表をするとき、聞くときのルールや態度を身につける。 b:目的や場に応じた話し方、伝え方を学び、実践的な言語コミュニケーションを学ぶ。 c:論理的に思考し、伝えるための文章を整えられる力を身につける。	a、b:行動の観察、検証 c:記述の確認
	物語	【古典】 教材: 『伊勢物語』 「芥川」 「筒井筒」 形容詞・形容動詞の活用	○			◎	○	a:歌物語を通して平安時代の人間の心情にふれる。 d:現代の人間の生活や心情と対照的に作品を捉えながら、古文を的確に読み、普遍的な人間のありさまを見出す。 e:形容詞・形容動詞の活用を覚える	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:小テスト
	漢文入門	【古典】 教材: 訓点・書き下し文など漢文の基礎 故事成語	○			◎	○	a:漢文の訓読方法を身につけ、現代の日常生活にも使われる故事成語を積極的に知る。 d:熟語、慣用句などの由来を知り、言葉の意味に対する認識を深める。 e:訓点の法則を理解し、書き下し文をつくれるようになる。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:小テスト、定期考査

	漢詩	【古典】 「春暁」 「涼州詞」	○			◎	○	a:漢詩の情感を味わい、日本の古典、現代文学に深く影響を与えたことを知る。 d:作品を的確に読み取り、唐代特有の表現や、時代を隔てて通底する詩情を把握する。 e:五言絶句、七言絶句の構成を理解する。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:小テスト、定期考査
3学期	小説二	【現代文】 教材: 「ナイン」 「カレーうどん」	○			◎	○	a:小説の奥深さを味わい、想像力を駆使して作品を捉えようとする。 d:作品に流れる友情や人のやさしさを理解し、作者の持つ生命の意味について考える。 e:作品の語彙を理解する。	a:行動の観察と確認 d:記述の確認、定期考査 e:小テスト
	評論三	【現代文】 教材: 「コインは円形か」	○		○	◎	○	a:論理的説明と自己で行う実験を照らし合わせながら、論旨を捉えようとする。 c:作品を読んで気づかされたこと、自己の経験から考えたことを文章にできる。 d:作品を論理的に理解し、評論の読解の仕方を確立する。 e:論旨の理解に必要な漢字や語彙を身につける。	a:行動の観察と確認 c:記述の確認 d:定期考査 e:小テスト
	軍記	【古典】 教材: 『平家物語』 「木曾の最期」 助動詞	○			◎	○	a:軍記物の叙情性や語り物としての韻律性などを感じ味わう。 d:文意を的確に読み取り、物語の展開、登場人物の心情を捉える。 e:主要な助動詞の意味、用法を習得する。	a:行動の観察、記述の点検 c:記述の確認、定期考査 e:小テスト、定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。